

登録コード:MH514400 開講年度:2026		授業科目区分	学科共通専門科目 必修
科目名	チーム医療演習 Team-based Medicine Practicals		
担当教員	杉山 暢宏 他 浅野 美礼・松田 和之・青木 薫・西澤 公美・森 淳一郎		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	全専攻/4年 後期(前半) 金曜・4時限 金曜・5時限		
単位数、講義室	1単位	医学科第1実習室 保健学科311講義室 保健学科211講義室 保健学科241講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH22カリ・保健, MH20カリ・保健		
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。	⇔	対象者の健康状態、信条、心情、生活、そして、対象者を取り巻く人的・物理的環境など多角的な視点に基づいた支援のあり方について理解する。
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	⇔	対象者の健康問題に対して、エビデンスも参照した臨床判断の基本的な進め方について理解する。
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。	⇔	チーム医療における自己の専門性の位置づけと他職種の専門性を理解した上で、協調的な協働活動を進めていくための基本的な態度を修得する。
	MH25カリ・保健・看護, MH25カリ・保健・検査, MH25カリ・保健・理学, MH25カリ・保健・作業, MH23カリ・保健・看護, MH23カリ・保健・検査, MH23カリ・保健・理学, MH23カリ・保健・作業		
	〈問題解決力〉保健・医療・福祉の場で生じる多様な情報を、科学的・多角的に収集・評価・分析し、最新情報と科学的根拠に基づいて判断を行うとともに関係者に伝えることができる。	⇔	患者（家族）にとって望ましい医療あるいは療養生活とは何かを考え、患者（家族）のニーズに応じていく上でかかわりが必要と考えられる専門職を見出せる。また、事例課題を通して明らかになった課題について、それぞれの職種の立場から解決に向けての提案・取り組みができる。
	MH25カリ・保健・看護, MH23カリ・保健・看護		
	〈対人関係形成・協働力〉保健・医療・福祉の現場における対象者やその家族、チーム関係者とコミュニケーションをとりながら適切な関係を形成し、看護専門職者として協働的に役割を担うことができる。	⇔	他職種が持つ専門的な知識や技術を理解し、互いの専門性を尊重する姿勢を身につける。また、協働的なチームであるためのコミュニケーションのとり方、メンバー間での情報や資源の共有化、メンバー間での調整のあり方を修得する。
	MH25カリ・保健・検査, MH25カリ・保健・理学, MH25カリ・保健・作業, MH23カリ・保健・検査, MH23カリ・保健・理学, MH23カリ・保健・作業		
	〈対人関係形成・協働力〉保健・医療・福祉の現場における対象者やその家族、チーム関係者とコミュニケーションをとりながら適切な関係を形成し、保健・医療専門職者として協働的に役割を担うことができる。	⇔	他職種が持つ専門的な知識や技術を理解し、互いの専門性を尊重する姿勢を身につける。また、協働的なチームであるためのコミュニケーションのとり方、メンバー間での情報や資源の共有化、メンバー間での調整のあり方を修得する。
	MH25カリ・保健・看護, MH23カリ・保健・看護		
授業で学べる「テーマ」	〈プロフェッショナリズム〉看護専門職者として生命を尊ぶ倫理観と責務・行動規範を身に付け、人々の健康と社会の発展に向けて省察的・自律的に行動することができる。	⇔	患者（家族）中心の保健医療チームを構成する上で、患者と医療者の関係性を深く理解し、患者（家族）が積極的にチームに参加できるようなかかわり方を学ぶ。
	MH25カリ・保健・検査, MH25カリ・保健・理学, MH25カリ・保健・作業, MH23カリ・保健・検査, MH23カリ・保健・理学, MH23カリ・保健・作業		
授業概要	〈プロフェッショナリズム〉保健・医療専門職者として生命を尊ぶ倫理観と責務・行動規範を身に付け、人々の健康と社会の発展に向けて省察的・自律的に行動することができる。	⇔	患者（家族）中心の保健医療チームを構成する上で、患者と医療者の関係性を深く理解し、患者（家族）が積極的にチームに参加できるようなかかわり方を学ぶ。
	患者ならびに家族を中心とした全人的なヘルスケアを提供するためには、患者が抱えている問題やニーズに応じた異なった能力・技術・視点を持つ多職種が、協働的なチームを作り対応することが必要となります。 そこで本演習では、医学科・保健学科4年生の合同演習を通して、患者（家族）中心のチーム医療のあり方や、関連職種間における専門性の尊重と担うべき役割、患者（家族）を含めたチームメンバー間のコミュニケーションのとり方、確固たる倫理観など、患者（家族）にとって有効なヘルスケアチームの一員としてふさわしい医療職者となるための基本的な能力の修得を目指します。 本授業は、医学部1年次に行った「新入生ゼミナール」の発展版です。これまで3年間、各専攻それぞれに学んできた知識と経験を携え、本演習に臨んで下さい。 本授業は、担当教員の医療機関における医師、看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士としての実務経験を活かして演習を行います。 ＊本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。		
授業計画	第1回（10月16日）：全体オリエンテーション、チームビルディング、グループワーク① 第2回（10月30日）：グループワーク② 第3回（11月27日）：グループワーク③ 第4回（12月11日）：グループワーク④：発表会に向けた準備作業 第5回（12月25日）：グループワーク⑤：演習の総括、授業アンケート		
授業の進め方	本演習では、リアリティーのある模擬症例とその家族を設定し、それらにおける医学的、社会的、心理的な問題を解決していくためのヘルスケアチームとしての関わり方について、		

授業の進め方	医学科生・保健学科生による合同のグループワークでの議論を通して学んでいきます。 グループワークでは、専攻を超えた学生同士のディスカッションを通じて、各職種の特徴や役割、協働の在り方を学びます。具体的には、各学生がノートパソコンを持参し、グループスライドを用いて検討内容を共有しながら、ディスカッションを進めていきます。 グループワークの各教室の担当教員は進行のファシリテートやアドバイスをを行います。 また、演習の最後には、それぞれのグループが議論した内容をパワーポイントスライドにまとめてeALPSにアップロードし、10グループ単位で学生同士の相互評価を行います。
テキスト、教材、参考書	参考書： 細田満和子：「チーム医療」とは何か-患者・利用者本位のアプローチに向けて 第2版, 日本看護協会出版会, 2021 鳥取大学医学部地域医療学講座：地域医療学ハンドブック 君たちは地域医療をどう学ぶか, デザインエッグ, 2022
成績評価の方法	①グループワークの第1回～第3回討論内容提出状況, ②グループワーク成果物に対する学生同士の相互評価, ③グループワークの成果物に対する教員の評価に基づいて総合的に評価します。
成績評価の基準	①グループワーク第1回～第3回の討論内容提出状況(20点×3回), ②グループワーク成果物に対する学生同士の相互評価(1位:10点, 2位:9点, 3位:8点, 4位:7点, 5位:6点, 6位:5点, 7位4点, 8位:3点, 9位:2点, 10位:1点), ③グループワークの成果物に対する教員の評価(0～30点)に基づいて総合的に評価します。 提出課題ならびにプレゼンテーションの内容の評価については、下記の基準で行います。 秀：課題に対する問題解決の内容やプレゼンテーションの内容が、十分に適切である。 優：課題に対する問題解決の内容やプレゼンテーションの内容が、概ね適切である。 良：課題に対する問題解決の内容やプレゼンテーションの内容が、基本的なレベルにある。 可：課題に対する問題解決の内容やプレゼンテーションの内容が、最低限のレベルにある。 不可：課題に対する問題解決の内容やプレゼンテーションの内容が、最低限のレベルに達していない。
事前事後学習の内容	グループワークに関する5時間程度の予習と復習を毎回行うようにしてください。 本授業の単位修得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間20時間(4時間×5回) + 自己学習時間25時間(5時間×5回) = 45時間
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	質問、連絡、相談など： 医学科 森 淳一郎 : jimori@shinshu-u.ac.jp (内線5821) 柴田 有亮 : peryton@shinshu-u.ac.jp (内線5822) 看護学専攻 浅野 美礼 : millet@shinshu-u.ac.jp (内線3553) 小林 千世 : ckobaya@shinshu-u.ac.jp (内線3531) 検査技術科学専攻 松田 和之 : kmatsuda@shinshu-u.ac.jp (内線3533) 平 千明 : tairacha@shinshu-u.ac.jp (内線3565) 理学療法学専攻 青木 薫 : kin29men@shinshu-u.ac.jp (内線3545) 西澤 公美 : hitnishi@shinshu-u.ac.jp (内線3599) 作業療法学専攻 杉山 暢宏 : nsugi@shinshu-u.ac.jp (内線3587)